

令和2年度 施策評価シート

1. ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 における位置づけ

施策体系	分野	04 健康・保険 ～元気・健康の好循環が生まれるまち～		
	施策	18 介護保険（介護給付）－安心して介護が受けられるまちを目指します－		
重点プロジェクト				
主管課	福祉部 高齢福祉課	評価責任者	山中 昇	
		評価日	令和3年5月31日	
関連課	障がい福祉課、保健センター			
目標	適切な介護認定を行うとともに、介護保険事業の適正な運営に努めます。また、介護が必要と認定された場合には、安心してサービスが受けられるよう必要な地域に必要なサービス量を確保し、併せて質の向上を図ります。			
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 介護保険サービスの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○正確・公平で統一性のある認定結果となるよう、適切な要介護認定に努めます。 ○要介護・要支援認定者及び家族介護者のニーズを把握し、必要な地域に必要なサービス量の確保を図ります。 ○介護保険サービス提供事業者向けの研修会を実施するなど、従事者のケア向上を図ります。 <p>(2) 介護保険事業の適正な運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ○効率的な事業運営に努め、国や県の動向を注視しながら、サービス利用と負担の適正化や見直しを図ります。 ○事業者への指導・監査、実地調査を充実させ、併せてケアプランチェックなどにより、介護費用を含めた適切なサービス内容及び自立支援に向けたケアマネジメントの適正化を図ります。 			

2. 施策指標と達成状況

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する指標です。

施策目標	指標1	指標名	要介護認定率（各年10月1日）					
		説明	後期高齢者の増加による上昇を見込んだが介護予防の効果と認定の適正化により、令和元年度実績の15.27%よりも上昇したものの目標値よりも低い数値に抑えることができた。					
		単位	%以下					
	成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	14.80	15.70	16.50	17.20	18.00	18.80
		実績値	14.62	15.27	15.66			
	指標2	指標名	介護サービス受給割合（各年10月分）					
		説明	認定の適正化、サービス量確保を図る指標となる。目標値よりも低い値となっているが、新型コロナウイルス感染症の流行により介護サービス（主に通所系サービス）の利用控えが要因と考えられる。					
		単位	%以上					
	成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	80.80	81.00	81.30	81.50	81.80	82.00
		実績値	81.70	82.99	79.62			
	指標3	指標名						
		説明						
		単位						
	成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値						
		実績値						
指標4	指標名							
	説明							
	単位							
成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	説明							
	単位							
成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	目標値							
	実績値							

3. 施策への投入コスト

(単位：千円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
支出	事務事業費	6,261,766	6,573,184	7,100,350	7,588,761		
	人件費	97,204	102,731	112,548	91,593		
収入	特定財源	3,720,557	4,082,895	4,020,598	4,462,733		
	一般財源	2,638,413	2,593,020	3,192,300	3,217,621		

4. 評価対象年度の施策実施内容

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する取組です。

		実施内容	実施実績と効果	主な事務事業
取組①	介護保険サービスの充実	介護保険サービス提供事業者向けの連絡会の開催など新型コロナウイルス感染症への対応について国県通知や各種制度の周知に努めるとともに衛生用品を配布し、訪問により感染予防の取り組みを確認した。また、令和3年度からの報酬改定について周知を図った。	介護事業所のアンケート調査から、事業の継続に向けた感染対策の徹底が課題ととらえ、事業所の支援のために不織布マスクや消毒液、使い捨て手袋の配布や地域密着入所施設へのPCR検査を行ったり感染対策徹底を呼び掛け、市内事業所の努力により事業が継続された。	介護保険管理事務
取組②	介護保険事業の適正な運営	要介護認定者の自立支援等のために、埼玉県国民健康保険団体連合会に審査を委託し、給付を行った。	【給付費】 令和2年度6,746,221千円（令和元年度6,467,956千円に比べ、約4.3%増）	介護給付管理事務
取組③	介護保険事業の適正な運営	介護保険制度において、給付費、総合事業等、事務費、低所得者保険料軽減に必要な経費を介護保険特別会計へ繰り出した。また、ケアプラン点検、要介護認定の適正化事業、介護給付費通知、医療情報との突合など介護給付適正化に努めた。	ケアプラン点検は8事業所、職員の認定調査票の確認は100%であった。介護保険特別会計において市の負担すべき経費を必要額を精査の上、繰り出した。 令和2年度繰出金1,266,294千円（令和元年度繰出金1,202,102千円に比べ、約5.3%の増）	介護保険繰出金
取組④				
取組⑤				

5. 評価

評価	
指標の達成状況	法令に基づき、介護保険サービスを提供するために不可欠なものであるため継続して実施する。
おおむね順調	令和2年度においては、保険料の徴収強化のため、自動音声システムによる電話催告を開始した。今後も引き続き事業の改善を図りながら適切に事業を実施していく。（介護保険料現年度分徴収率の推移 平成29年度98.35%⇒平成30年度98.72%⇒令和元年度98.86%⇒令和2年度99.12%）なお、令和2年度においては、令和元年度の一部を含め、新型コロナウイルス感染症の影響による収入減少等に対し保険料の減免を行った。（令和元年度分35人319,700円、令和2年度分39人1,763,000円）
行政資源の活用	
おおむね適切	
取組の有効性	要介護認定については、コロナ禍により認定調査が施設や病院などで実施制限されることもあったが、感染対策を取り、また認定審査会も書面とFAX、電話による開催にするなど工夫しながら実施し、認定の遅延が起らないよう努めた。
有効	介護給付については、施設での新型コロナウイルス感染症の発生もあったが、県とも連携を取り、更なる感染拡大を防止するよう努めた。介護給付適正化などの取り組みについて評価するインセンティブ交付金の評価点数で、令和2年度分、令和3年度分県内1位となり、今後さらに取り組みを充実させることにより、自立支援のための適切な介護サービスを提供していく必要がある。また、コロナ禍における衛生用品の配布やPCR検査などの事業者支援を行ってきたが、今後も引き続き事業者に対する支援を行い、介護給付の安定を図る。
施策の効果	
効果が得られている	

令和2年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		介護保険繰出金	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	04 健康・保険 ～元気・健康の好循環が生まれるまち～		
	施策	18 介護保険（介護給付） -安心して介護が受けられるまちを目指します-		
予算費目				
所管部課		福祉部 高齢福祉課	評価責任者	増村 規子
事務事業期間		平成12年度～	評価日	令和3年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等				
事務事業の内容	事務事業の目的	介護保険法の定めにより介護保険事業等は、国、県、市及び被保険者が負担する介護保険料により運営されている。市が負担すべき金額について、保険者が管理する介護保険特別会計に一般会計から繰出金として支払うことにより、介護保険事業の円滑な運営を図っている。		
	事務事業の経緯	平成12年の介護保険制度創設時から、介護保険事業を進めていく上で必要な経費を介護保険特別会計に繰り出している。		
	事務事業の概要	介護保険制度において、給付費、総合事業等、事務費、低所得者保険料軽減に必要な経費を介護保険特別会計へ繰り出す。		
	令和2年度の主な取組	介護保険制度において、給付費、総合事業等、事務費、低所得者保険料軽減に必要な経費を介護保険特別会計へ繰り出す。 令和元年度決算額：1,202,101,800円 令和2年度決算額：1,266,293,200円 令和3年度予算額：1,356,250,000円		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.10	0.10	0.10
		人件費	798	806	806
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		798	806	806	
事業費	報酬※	0	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	0	0	0	
	委託料	0	0	0	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費※	0	0	0	
支出合計		798	806	806	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		798	806	806	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		7	7	7	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	繰出額		
	説明	繰出額		
成果	単位	千円		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	1,218,068	1,316,233	1,396,662
	実績値	1,202,102	1,266,294	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>繰出額内訳</p> <p>1,266,293,200円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 給付費 920,337,000円 ・ 地域支援事業費（総合事業） 26,951,000円 ・ 地域支援事業費（総合事業以外） 28,238,000円 ・ 事務費 234,152,000円 ・ 低所得者保険料軽減分 56,615,200円
--------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	法令に基づき、介護保険サービスを提供するために不可欠なものであるため継続して実施する。
中長期的方向性	
継続	

令和2年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名	介護保険管理事務		前年度の方向性	継続
重点プロジェクト				
施策分野	04 健康・保険 ～元気・健康の好循環が生まれるまち～			
施策体系	18 介護保険（介護給付） -安心して介護が受けられるまちを目指します-			
予算費目	介護保険特別会計 01総務費 01総務管理費 01一般管理費			
所管部課	福祉部 高齢福祉課	評価責任者	増村 規子	
事務事業期間	平成12年度～	評価日	令和3年4月7日	
個別計画根拠法令・条例等	介護保険法、介護保険法施行令、介護保険法施行規則、ふじみ野市介護保険条例、ふじみ野市介護保険条例施行規則、ふじみ野市介護保険事業計画			
事務事業の内容	事務事業の目的	介護が必要な人の尊厳を保持し、有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう支援するため、介護保険制度の健全な運営を図る。		
	事務事業の経緯	平成12年4月に創設された介護保険制度において市町村が介護保険の保険者となることとされ、保険料賦課・徴収、要介護認定等の事務を実施することとなった。なお平成30年度から、①介護保険事務②介護認定事務③介護保険料賦課徴収事務④還付事務⑤介護保険給付費等準備基金積立金⑥予備費を統合し、介護保険管理事務とした。		
	事務事業の概要	①本市の被保険者の資格管理を行う ②介護保険事業の費用を賄うため、65歳以上の被保険者の保険料を市が賦課・徴収する。 ③介護給付の前提となる要介護認定業務を実施する。 ④介護保険料の過誤納が生じた場合に還付を実施する。 ⑤介護保険制度の周知等を行う。 ⑥介護保険給付費等準備基金の管理を行う。		
	令和2年度の主な取組	低所得者の介護保険料の軽減拡大に対応した保険料賦課を行った。また、収納率の向上のため、自動音声システムによる電話催告を実施した。 要介護認定については、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、感染拡大期の認定審査会を書面及び電話による開催で実施した。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	5.30	5.38	6.00
		人件費	42,284	43,347	48,342
	再任用職員	従事人数(人)	1.00	1.49	0.00
		人件費	3,844	7,899	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	17.91	13.57	16.64
	人件費	31,073	35,116	26,331	
	人件費計	77,201	86,362	74,673	
事業費	報酬※	24,169	24,383	29,576	
	賃金※	4,060	0	0	
	需用費	2,181	2,227	2,425	
	委託料	31,046	29,506	32,500	
	使用料及び賃借料	2,314	2,342	2,461	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	72,532	295,670	51,336		
	支出合計	182,429	405,375	166,640	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	440	2,379	1,320
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	1,230	822
一般財源	181,989	401,766	164,498		
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		1,591	3,457	1,436	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	要介護認定率		
	説明	高齢者のうち、介護を必要とする人の割合。介護予防の効果や認定の適正化を図る指標となる。目標値以下となることを評価する。10月1日現在。（基本計画の指標）		
成果	単位	%		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	15.70	16.50	17.20
	実績値	15.27	15.66	
指標 2	指標名	介護保険料収納率（現年分）		
	説明	保険料の収納業務が適正に実施されているかの指標である。介護サービスを提供するために必要な財源確保のために収納率を上げることが必要となる。		
成果	単位	%		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	98.12	98.30	98.30
	実績値	98.86	99.12	
指標 3	指標名	コンビニ収納及びスマートフォンアプリ収納		
	説明	収納率向上に向けた指標である。令和元年7月よりコンビニ収納及びスマートフォンアプリ収納を実施することで納付者の保険料納付の簡便化を図っている。コンビニ収納等で納付された保険料納付額を指標とした。		
成果	単位	円		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	30,000,000	30,000,000	30,000,000
	実績値	36,910,900	49,982,600	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>○介護保険料賦課・徴収について 第7期介護保険事業計画（平成30年度～令和2年度）に基づく15段階の保険料の賦課を第1号被保険者に対し行った。介護保険料の徴収方法は、特別徴収（年金からの天引き）普通徴収（納付書・口座振替による納付）である。令和元年度からコンビニ収納及びスマートフォンアプリ収納を実施し、また令和2年度は、徴収強化のための滞納処分を実施、口座振替の案内の強化、認定申請時の未納者への納付指導、徴収嘱託員による訪問などを引き続き実施するとともに、収税課等で実施されている自動音声ガイダンスによる未納・滞納者への納付催告を新たに行うことで収納率向上へ繋がられた。これにより、介護保険の安定運営と介護保険制度に対する市民の信頼と理解を深めることができた。</p> <p>○要介護認定について 要介護認定については全国一律の方法により行っているが、後期高齢者の増による要介護認定者数の増に対応するため、更新申請における有効期間上限が平成30年度から36か月となり、一定の条件を満たす更新申請に限り、審査会での審査を簡素化する方法が可能となった。また令和2年度はコロナ禍において施設等入所者における要介護認定期間を延長し、認定審査会の開催方法を書面及び電話形式において実施するなどコロナ感染の防止に努めた。</p> <p>○コンビニ収納及びスマートフォンアプリ収納について 令和元年度より開始したコンビニ収納等は一定以上の利用者が見込まれることから、今後も継続して実施していく。</p>			
	令和元年度	令和2年度		
現年分	6,013件 36,170,800円	現年分	7,484件 46,759,100円	
滞繰分	153件 740,100円	滞繰分	646件 3,223,500円	
合計	6,166件 36,910,900円	合計	8,130件 49,982,600円	

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	<p>本事業は法令により実施する事業であり、高齢化の進む中、介護給付を利用する市民も増加することが見込まれる。このため、資格管理、保険料の賦課・徴収、要介護認定等を適切に実施することが、制度の運営に欠かせない。今後も制度改正に対応しながら、事務改善を行い、適正な実施を行う。また、令和3年度より今後の要介護認定件数の増に対応するため、更新申請において要介護度に変更がない場合は有効期間上限を48カ月に延長することが可能となるため、適切に運用を行う。</p>
中長期的方向性	
継続	

令和2年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名	介護給付管理事務			前年度の方向性	—
重点プロジェクト					
施策体系	分野	04 健康・保険 ～元気・健康の好循環が生まれるまち～			
	施策	18 介護保険（介護給付） —安心して介護が受けられるまちを目指します—			
予算費目	介護保険特別会計 02保険給付費 01保険給付費 01介護サービス等諸費				
所管部課	福祉部 高齢福祉課	評価責任者	増村 規子		
事務事業期間	平成30年度～	評価日	令和3年4月7日		
個別計画 根拠法令・条例等	介護保険法等				
事務事業の内容	事務事業の目的	介護を要する状態となってもできる限り地域で自立した日常生活を送ることができるように、介護（予防）サービス給付を行う。また、高額介護給付・高額医療合算介護給付を行うことで、要介護認定者が介護保険サービスを利用する際の負担を軽減し、介護サービスの適切な利用の促進と介護者の負担軽減を図る。			
	事務事業の経緯	従来より実施していた介護給付事務・介護予防給付事務・高額介護給付事務・高額医療合算介護給付事務・審査支払事務を一体的に評価等するために、平成30年度より介護給付管理事務として一つの事業にまとめた。			
	事務事業の概要	要介護認定者に対し介護サービス及び介護予防サービスの給付をすることで、利用者は原則1割から3割の負担で介護保険サービスを利用することができる。要介護等認定者が自立した生活を送れるようにするとともに状態の悪化防止を図るためのものである。また高額介護（予防）サービス費並びに高額医療合算介護サービス費を支給することで、所得の低い方も、安心してサービスを利用することができる。円滑な給付を行うために、サービスの審査等については埼玉県国民健康保険団体連合会に事務を委託し実施している。			
	令和2年度の主な取組	引き続き要介護・要支援認定者に対する介護給付を実施する。平成31年1月から開始した福祉用具購入費と住宅改修費の受領委任払いを継続・周知するとともに、高額介護（予防）サービス費の対象者への勧奨通知を引き続き実施する。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	3.10	3.15	2.00
		人件費	24,732	25,380	16,114
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
	人件費計	24,732	25,380	16,114	
事業費	報酬※	0	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	0	0	0	
	委託料	0	0	0	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	6,463,674	6,741,599	7,491,975	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	4,282	4,622	4,819		
	支出合計	6,492,688	6,771,601	7,512,908	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	1,379,674	1,194,512	1,335,196
		県支出金	956,479	995,461	1,101,260
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	1,746,302	1,827,016	2,024,135
一般財源	2,410,233	2,754,612	3,052,317		
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		21,070	23,700	26,644	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	決算額		
	説明	要支援者と要介護者が介護（予防）サービスを利用した際の介護給付費等の年間支給額		
成果	単位	千円		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	6,977,527	7,547,291	7,547,291
	実績値	6,463,674	6,746,221	
指標 2	指標名	審査支払委託件数		
	説明	埼玉県国民健康保険団体連合会に審査を委託した年間件数（第3者求償事務を除く）		
成果	単位	件		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	111,825	120,125	120,125
	実績値	107,052	110,810	
指標 3	指標名	介護サービス受給割合（10月分）		
	説明	認定者のうち介護サービスを利用する人の割合。認定の適正化、サービス量確保を図る指標となる。（前期基本計画の指標）		
成果	単位	%		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	81.00	81.30	81.50
	実績値	82.99	79.62	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	【給付費内訳】
	<ul style="list-style-type: none"> ・介護給付 6,397,664,547円 ・介護予防給付 144,616,840円 ・高額介護給付 177,408,406円 ・高額医療合算介護給付 21,909,497円 ・審査支払手数料 4,621,896円（内189,496円は第三者行為求償事務分）

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	本事務は、法令に即して実施しているため、今後も適正な介護保険制度の運営を目指し、継続して実施する。
中長期的方向性	
継続	